

行動科学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
行動科学概論	ミクロ-マクロ問題入門	2	佐藤 嘉倫	3	月	4	
行動科学概論	ゲーム理論入門	2	佐藤 嘉倫	4	月	4	
行動科学概論	社会調査の基礎	2	木村 邦博	3	火	5	
行動科学概論	社会調査の実際	2	木村 邦博	4	火	5	
行動科学基礎演習	行動科学のための数理 モデル入門	2	浜田 宏	3	金	4	
行動科学基礎演習	行動科学のための因果 推論入門	2	浜田 宏	4	金	4	
行動科学基礎実習	多変量解析	2	小川 和孝	4	水	4,5	
行動科学基礎実習	社会調査演習	2	小川 和孝	5	水	4,5	
行動科学各論	リスクと防災の社会学	2	佐藤 嘉倫	6	月	2	
行動科学各論	多文化共生論	2	永吉 希久子	集中(5)			
行動科学各論	政治心理学	2	秦 正樹	集中(5)			
行動科学演習	社会秩序形成とエー ジェント・ベースト・ モデル	2	佐藤 嘉倫 瀧川 裕貴	5	月	5	
行動科学演習	エージェント・ベース ト・モデルによる社会 現象の分析	2	佐藤 嘉倫 瀧川 裕貴	6	月	5	
行動科学演習	質問の科学	2	木村 邦博	5	月	4	
行動科学演習	「質問の科学」実験実 習	2	木村 邦博	6	月	4	
行動科学演習	ベイズアプローチによ る社会学の理論と実証	2	浜田 宏	5	水	2	
行動科学演習	社会科学のためのエコ ノメトリクス	2	浜田 宏	6	水	2	
行動科学演習	偏見の社会学	2	小川 和孝	5	金	2	
行動科学演習	移動と階層	2	小川 和孝	6	金	2	

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫（教授）

講義コード：LB31402, 科目ナンバリング：LHM-OS0201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：マイクロ-マクロ問題入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Micro-macro Problems

3. 授業の目的と概要：

次に上げるモデルを用いて、個人の行動から社会的結果が生じる過程の分析を進める。

- (1) 個人的意思決定モデル
- (2) 交換モデル
- (3) 拡散モデル
- (4) 学習モデル

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course teaches the following models to analyze the processes in which social consequences are produced from individuals' behaviors.

- 1) Decision making models
- 2) Exchange models
- 3) Diffusion models
- 4) Learning models

5. 学習の到達目標：

個人と社会の相互連関について理解を深め、社会現象を分析する方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students who participate in this course will learn the interaction between individuals and society and master methods with which they analyze social phenomena.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (1) (教科書第 1 章、第 2 章)
2. イントロダクション (2) (教科書第 1 章、第 2 章)
3. 推論の評価 (1) (教科書第 3 章)
4. 推論の評価 (2) (教科書第 3 章)
5. 選択モデル (1) (教科書第 4 章)
6. 選択モデル (2) (教科書第 4 章)
7. 選択モデル (3) (教科書第 4 章)
8. 交換モデル (1) (教科書第 5 章)
9. 交換モデル (2) (教科書第 5 章)
10. 交換モデル (3) (教科書第 5 章)
11. 適応モデル (1) (教科書第 6 章)
12. 適応モデル (2) (教科書第 6 章)
13. 拡散モデル (1) (教科書第 7 章)
14. 拡散モデル (2) (教科書第 7 章)
15. ここまで講義で取り上げたモデルを再検討し、モデル構築の方法論を考察する。

8. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [60%]・() リポート []・(○) 出席 [40%]

9. 教科書および参考書：

レイブ・マーチ『社会科学のためのモデル入門』ハーベスト社

10. 授業時間外学習：

教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー：月曜日午後 12 時—午後 1 時（事前予約をすること）

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫 (教授)

講義コード：LB41405, 科目ナンバリング：LHM-OS0201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ゲーム理論入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Game Theory

3. 授業の目的と概要：

ゲーム理論の基礎的な論理を理解することをめざす。
講義でカバーする内容は次のようなものである。

- ・ゲーム理論による説明形式
- ・戦略型ゲームとナッシュ均衡
- ・展開型ゲームと部分ゲーム完全ナッシュ均衡
- ・繰り返しゲームとフォーク定理
- ・不完備情報ゲームと完全ベイジアン均衡
- ・進化ゲーム理論

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course's aim is to understand the basic logic of game theory. The following topics will be covered in the course:

- 1) Explanation of social phenomena by game theory
- 2) Games for strategic form and Nash Equilibrium
- 3) Games for extensive form and Sub-game perfect Nash Equilibrium
- 4) Repeated games and Folk Theorem
- 5) Games with incomplete information and Perfect Bayesian Equilibrium
- 6) Evolutionary game theory

5. 学習の到達目標：

- (1) ゲーム理論の基本的論理を理解できるようになる。
- (2) ゲーム理論を用いた学術論文の内容を理解できるようになる。
- (3) 自分で簡単なゲーム理論的モデルを構築できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

By participating in the course, students will be able to understand the basic logic of game theory, to read academic papers using game theory, and to build game theoretic models by themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (1) (教科書 1, 2, 3)
2. イントロダクション (2) (教科書 1, 2, 3)
3. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ (1) (教科書 4, 5, 6)
4. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ (2) (教科書 4, 5, 6)
5. 展開形ゲーム (教科書 9, 10, 11)
6. 展開形ゲームの応用 (教科書 12, 13)
7. 繰り返しゲーム (1) (教科書 14, 15)
8. 繰り返しゲーム (2) (教科書 14, 15)
9. 不完備情報ゲーム (教科書 16, 17)
10. 不完備情報ゲームの応用 (1) (教科書 20)
11. 不完備情報ゲームの応用 (2) (教科書 20)
12. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプレーター・ダイナミクス (1) (教科書 22, 23, 24)
13. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプレーター・ダイナミクス (2) (教科書 22, 23, 24)
14. 確率進化ゲーム理論 (教科書 25)
15. ここまで講義で取り上げたトピックを再検討し、モデルを構築する方法論を考察する。

8. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [60%]・() リポート [] %・(○) 出席 [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書：佐藤嘉倫『ワードマップ ゲーム理論—人間と社会の複雑な関係を解く』新曜社、2008 年

10. 授業時間外学習：

教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：オフィスアワー：月曜日午後 12 時—午後 1 時 (事前に予約すること)

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB32503, 科目ナンバリング：LHM-OS0201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：社会調査の基礎

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Social Surveys

3. 授業の目的と概要：

現代社会を特徴づける人間活動の 1 つである社会調査について、その目的と進め方（調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方）を知るとともに、その歴史と成果について学習する。個人が身の回りから様々な情報を得る場合と社会調査との違いに着目しながら、細かい技法よりも、基本的な考え方を修得することを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course serves as an introductory course on social surveys. It helps students understand the basics of questionnaire design, sampling, interviewing, data analysis, and research ethics.

5. 学習の到達目標：

社会調査に関する基本的な知識を修得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course helps students acquire basic knowledge of social surveys.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 現代社会と社会調査：社会調査の目的と意義
2. 社会調査の用途と歴史：社会調査の歴史
3. 調査内容の決定(1)
4. 調査内容の決定(2)
5. 調査対象の決定(1)
6. 調査対象の決定(2)
7. 調査の実施と処理(1)
8. 調査の実施と処理(2)
9. 結果の集計と分析(1)
10. 結果の集計と分析(2)
11. 聴取調査の方法：質的調査、社会調査の実例(1)
12. 調査報告をまとめる
13. さまざまな社会調査(1)：社会調査の実例(2)
14. さまざまな社会調査(2)：社会調査の実例(3)
15. 調査者と被調査者：社会調査の倫理

8. 成績評価方法：

筆記試験による。

9. 教科書および参考書：

教科書：原純輔・浅川達人 『社会調査』（改訂版）放送大学教育振興会、2009.

10. 授業時間外学習：

教科書と補足資料（ISTU で配付）で予習・復習をする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

- (1) 行動科学概論（社会調査の実際）とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 A に対応。

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB42502, 科目ナンバリング：LHM-OS0201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：社会調査の実際

2. Course Title (授業題目) : Social Survey Methodology

3. 授業の目的と概要：

社会調査を遂行しておく上で理解しておくべき、調査目的に合った調査企画・設計の方法と、データ収集やデータ分析の主要な技法について理解する。基本的な考え方と同時に、現実には遭遇する具体的な問題にどう実際的に対処していくかについても把握する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course serves as an advanced course on social surveys. It helps students understand the practical knowledge that should be useful in planning surveys, interviewing, and analyzing survey data.

5. 学習の到達目標：

社会調査を遂行するために基本的な技法に関する知識を得る。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course helps students acquire practical knowledge of social surveys.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 調査票の設計とワーディング 1 (説明・仮説・作業仮説、様々な調査実施方法)
2. 調査票の設計とワーディング 2 (調査票の構成、ワーディングと回答の歪み)
3. 標本抽出と統計的推測 1 (標本抽出法)
4. 標本抽出と統計的推測 2 (統計的推測)
5. 標本抽出と統計的推測 3 (統計的検定)
6. 因果推論の方法 1 (因果関係と相関関係)
7. 因果推論の方法 2 (因果的規定力の推定)
8. 測定と尺度構成 1 (測定と尺度構成の考え方)
9. 測定と尺度構成 2 (多次元尺度の考え方)
10. 測定と尺度構成 3 (社会的地位の測定法)
11. 多変量解析の基礎 1 (重回帰分析の考え方)
12. 多変量解析の基礎 2 (質的変数と重回帰分析)
13. 多変量解析の基礎 3 (パス解析と因子分析)
14. データの整理と作成 1 (調査票の配布・回収からエディティング、コーディング、データ入力とクリーニングまで)
15. データの整理と作成 2 (非定形データの処理・分析法)

8. 成績評価方法：

筆記試験による。

9. 教科書および参考書：

参考書：原 純輔・海野道郎 『社会調査演習 [第 2 版]』 東京大学出版会、2004

10. 授業時間外学習：

参考書と補足資料 (ISTU で配付) で予習・復習をする。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

- (1) 行動科学概論 (社会調査の基礎) とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 B に対応。

科目名：行動科学基礎演習／ Behavioral Science (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：浜田 宏 (教授)

講義コード：LB35403, 科目ナンバリング：LHM-OS0202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：行動科学のための数理モデル入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Mathematical Models in Behavioral Science

3. 授業の目的と概要：

行動科学において重要なツールである数理モデルについて初歩から学ぶ。

この授業で主にあつかうトピックは行動経済学，合理的選択理論，数理社会学，確率モデル，推測統計である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The aim of this course is to study mathematical models that are important analytical tools in behavioral science.

5. 学習の到達目標：

- (1) 数理モデルとは何かを正しく理解できる。
- (2) 数理モデルの基礎となる数学を正しく理解できる。
- (3) 数理モデルを用いて社会現象や人間行動を分析する力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) Students will clearly understand what mathematical models are.
- (2) Students will clearly understand mathematics that is the foundation of mathematical models.
- (3) Students will acquire the skill of analyzing social phenomena and human behavior by mathematical models.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

浜田 (2018) をテキストとして、様々な数理モデルの手法とその考え方を解説する。単にテキストを講読するだけでなく、数理モデルを用いて参加者が自分で社会現象や人間行動を分析できるようになることを重視する。

1. モデルとは何か (序)
2. 隠された事実を知る方法 (第 1 章)
3. 卒業までに彼氏ができる確率 (第 2 章)
4. 内定をもらう方法 (第 3 章)
5. 先延ばしをしない方法 (第 4 章)
6. 理想の部屋を探す方法 (第 5 章)
7. アルバイトの配属方法 (第 6 章)
8. 売り上げをのばす方法 (第 7 章)
9. その差は偶然でないと言えるのか? (第 8 章)
10. ネットレビューは信頼できるのか? (第 9 章)
11. なぜ 0 円が好きなのか? (第 10 章)
12. 取引相手の真意を知る方法 (第 11 章)
13. お金持ちになる方法 (第 12 章)
14. 数理モデルで社会を分析しよう (1) (担当者・履修者による報告 1)
15. 数理モデルで社会を分析しよう (2) (担当者・履修者による報告 2)

8. 成績評価方法：

出席 (30%)、授業内での報告 (30%)、授業内での質問やコメント (20%)、期末課題 (20%)

9. 教科書および参考書：

教科書：浜田宏，2018，『その問題、数理モデルが解決します：社会を解き明かす数理モデル入門』ベレ出版。

参考書：矢野健太郎・田代嘉宏，1993，『社会科学のための基礎数学 改訂版』裳華房。

10. 授業時間外学習：

演習中の議論に積極的に参加できるようにテキストを事前によく読み、疑問点を調べておくこと。課題をきちんと行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

命題の証明はかならず自分で計算してフォローすること。内容の理解に必要な数学については矢野・田代 (1993) を参照すること。

科目名：行動科学基礎演習／ Behavioral Science (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：浜田 宏 (教授)

講義コード：LB45404, 科目ナンバリング：LHM-OS0202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：行動科学のための因果推論入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Causal Inference for Behavioral Science

3. 授業の目的と概要：

行動科学, 経済学, 社会学, 心理学において非常に重要な課題である因果推論 (原因と結果の判断) について, その基本的な考え方と代表的な分析方法を紹介する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

到達目標

- (1) 因果推論とは何かを正しく理解できる。
- (2) 因果推論を行うための統計的方法を理解できる。
- (3) 具体的な社会現象について, 自分で因果推論を行う能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

伊藤 (2017) をテキストとして, 因果推論の考え方と代表的な方法を解説する。授業は, 担当者が 1 章をまとめ, 全員で疑問点を確認する。さらに発展のための課題を検討する。

1. インTRODクシヨン：因果推論とは何か
2. なぜデータから因果関係を導くのは難しいのか (伊藤 (2017) 第 1 章)
3. 現実の世界で「実際に実験をしてしまう」 (伊藤 (2017) 第 2 章)
4. 「境界線」を賢く使う RD デザイン (伊藤 (2017) 第 3 章)
5. 「複数期間のデータ」を生かすパネル・データ分析 (伊藤 (2017) 第 5 章)
6. 実践編：データ分析をビジネスや政策形成に生かすためには？ (伊藤 (2017) 第 6 章)
7. 因果関係と相関関係
8. ランダム化比較試験
9. 自然実験
10. 差の差分析
11. 操作変数法
12. 回帰不連続デザイン
13. 傾向スコアマッチング
14. 回帰分析
15. 自分で RCT をデザインしてみよう

8. 成績評価方法：

授業内での課題報告 (40%)、授業内での質問やコメント (30%)、期末課題 (30%)

9. 教科書および参考書：

教科書：伊藤公一郎, 2017, 『データ分析の力：因果関係に迫る思考法』 光文社新書

参考書：中室牧子・津川友介, 2017, 『「原因と結果」の経済学』ダイヤモンド社。

その他の文献は授業時に指示する

10. 授業時間外学習：

テキストを事前によく読み, 疑問点を調べておくこと。課題をきちんと行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は, 実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：行動科学基礎実習／ Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時. 後期 水曜日 5 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：小川 和孝 (准教授)

講義コード：LB43408, 科目ナンバリング：LHM-OS0203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：多変量解析

2. Course Title (授業題目)：Quantitative Research Methods

3. 授業の目的と概要：

統計ソフトウェア R を用いた演習を通じて、多変量解析の理論およびデータ分析について理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The aim of this course is to learn statistical research methods using R.

5. 学習の到達目標：

- (1) 記述統計量から多変量解析までの統計分析についての知識を身に付け、適切に使用できるようになる。
- (2) 統計ソフトウェア R を用いて、多変量解析を行うことができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

- (1) To understand and to confidently apply a variety of statistical research methods.
- (2) To learn how to use R for statistical analysis..

7. 授業の内容・方法と進度予定：

各回の内容は以下の通りである。

1. 多変量解析とは何か
2. R の基礎
3. 平均値、分散、グラフ
4. 平均値の差の検定、分散分析
5. クロス集計表とエラボレーション
6. 単回帰分析
7. 重回帰分析
8. ダミー変数、交互作用項
9. 回帰診断、予測値とグラフの利用
10. 二項ロジスティック回帰分析
11. 多項ロジスティック回帰分析、順序ロジスティック回帰分析
12. 主成分分析、因子分析
13. マルチレベル分析
14. 分析モデルの構築と手法の選定
15. 総合演習

8. 成績評価方法：

課題 (40%) 最終レポート (60%)

9. 教科書および参考書：

永吉希久子, 2016, 『行動科学の統計学』 共立出版.

10. 授業時間外学習：

ほぼ毎回課題を出すので、翌週までに課題を準備しておくことが求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：行動科学基礎実習／ Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時. 前期 水曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：小川 和孝 (准教授)

講義コード：LB53402, 科目ナンバリング：LHM-OS0203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：社会調査演習

2. Course Title (授業題目) : Social Survey Methods

3. 授業の目的と概要：

社会調査を行う上で必要となるさまざまな技法を習得することを目的とし、授業を通して社会調査の企画から実査、分析、報告書の作成までの一連の過程を経験する。この授業では特に量的調査を中心に扱う。

具体的には、東北大学学生を対象にした質問紙調査を行う。調査のテーマ設定、調査票の作成や調査の実施、データの入力、分析、報告を行う。「東北大学生の生活と意識」を共通のテーマとして設けたうえで、受講生の関心に応じてグループに分け、質問項目を考えてもらう予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course gives students experiences needed to conduct a social survey. It covers a quantitative social survey. Students are asked to plan and conduct an actual social survey, to analyze the data, and to write a report about the results. Respondents of the survey will be students of Tohoku University. The main theme of the survey will be "Life of students of Tohoku University and their attitudes."

5. 学習の到達目標：

- (1) 社会調査を行うための技法を身につけ、実際の調査を適切な方法で実施できるようになる。
- (2) 仮説の設定およびその検証方法を理解し、分析結果を仮説と関連させながら適切に表現できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. To acquire skills to conduct social surveys.
2. To understand ways to establish hypotheses and to test them, and to describe results in relation to the hypotheses.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

具体的なスケジュールは以下のとおりである。第1回から第5回の授業では、関心の近い受講者が集まってグループに分かれてもらい、仮説や質問項目の検討を行ってもらう。ただし、最終的には各グループの質問項目を1つの調査票にまとめ、実査やデータの入力作業は全受講者で行う。

1. 社会調査とは・社会調査の進め方
2. 社会調査のデザイン・調査テーマの設定
3. 先行研究、既存調査の整理
4. 仮説の設定、実査方法・調査対象者の検討
5. 質問項目の検討
6. 調査票の作成
7. 実査
8. エディティング・コーディング
9. 調査結果の入力
10. データのクリーニング
11. データ分析による仮説の検証 (1)
12. データ分析による仮説の検証 (2)
13. 結果の報告・報告書原稿の執筆
14. 報告書原稿の輪読・修正
15. 報告書の作成

8. 成績評価方法：

授業への積極的な参加 (60%)、最終報告書 (40%)

9. 教科書および参考書：

轟亮・杉野勇, 2017, 『入門・社会調査法 第3版』法律文化社.

10. 授業時間外学習：

調査票作成段階：関連する先行研究を読み、仮説を検討する

実査段階：対象者へのアポイントや実査への参加

分析段階：報告書原稿の作成

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫（教授）

講義コード：LB61203, 科目ナンバリング：LHM-OS0301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：リスクと防災の社会学

2. Course Title (授業題目) : Sociology of Risk and Disaster Prevention

3. 授業の目的と概要：

教科書に収められている論文や関連論文を踏まえて次のようなテーマなどを扱う予定である。

- ・社会関係資本と防災
- ・消防団のあり方
- ・防災とコミュニティ
- ・災害ボランティア

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course covers the following topics by reading book chapters of the textbooks:

1. Social capital and disaster prevention
2. Local fire-fighting organizations
3. Disaster prevention and community
4. Volunteers and disasters

5. 学習の到達目標：

自然災害のリスクを低減するためには、自然科学や工学だけでなく人間社会を対象とした社会科学の視点も必要となる。本講義では、社会科学とりわけ社会学の理論や方法論を用いて自然災害のリスクを低減し防災を実現する方策を検討する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will examine measures and policies to reduce the risks of natural disasters and prevent disasters through theories and methodology of social sciences and sociology in particular.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 本講義の概略を解説する。
2. 教科書（1）第2章を題材に防災をめぐるローカル・ノレッジのあり方を検討する。
3. 教科書（1）第3章を題材に防災コミュニティと町内会の検討をする。
4. 教科書（1）第4章を題材に都市部町内会における東日本大震災への対応に対する理解を深める。
5. 教科書（1）第5章を題材に災害ボランティアと支えあいのしくみづくりを分析する。
6. 教科書（1）第6章を題材に被災者の生活再建の社会過程に関する理解を深める。
7. 教科書（1）第7章を題材に災害弱者の支援と自立の問題を検討する。
8. 教科書（1）第9章を題材に防災ガバナンスの可能性と課題を議論する。
9. ここまで講義で取り上げてきたテーマを全体的に考察し、防災のための地域社会づくりについて議論する。
10. 教科書（2）第1章を題材に社会関係資本概念の初歩的な理解をする。
11. 教科書（2）第2章を題材に社会科学における社会関係資本概念の検討をする。
12. 前回に続いて、教科書（2）第2章を題材に社会科学における社会関係資本概念をさらに深く検討する。
13. 教科書（2）第3章を題材に関東大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。
14. 教科書（2）第4章を題材に阪神淡路大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。
15. 今まで講義で取り上げてきたテーマを振り返って、防災のための社会関係資本構築に向けた方策を検討する。

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%] ・ () リポート [60%] ・ () 出席 [40%]

9. 教科書および参考書：

(1) 吉原直樹（編），2012，『防災の社会学—防災コミュニティの社会設計に向けて』（第2版），東信堂。

(2) ダニエル・アルドリッチ，2015，『災害復興におけるソーシャル・キャピタルの役割とは何か：地域再建とレジリエンスの構築』，ミネルヴァ書房。

その他の関連論文については適宜講義中に紹介する。

10. 授業時間外学習：

教科書の該当箇所や関連文献を授業前に読んでおくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー：月曜日午後 12 時—午後 1 時（事前に予約すること）

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中(5), 単位数：2

担当教員：永吉 希久子 (非常勤講師)

講義コード：LB98828, 科目ナンバリング：LHM-OS0301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：多文化共生論

2. Course Title (授業題目)：Multicultural Society and Its Problems

3. 授業の目的と概要：

目的：日本における多文化共生の実態と社会制度の影響を理解し、説明できるようになる。

概要：日本における外国人住民の生活状況について、様々な社会制度との関わりを検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will understand current conditions of 'multicultural coexistence' in Japan and impacts of institutions on the conditions.

5. 学習の到達目標：

日本における多文化共生の実態と社会制度の影響を理解し、説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course is designed to help students explain how institutions affect current conditions of 'multicultural coexistence' in Japan.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

国境を越えた人の移動は、そうした人々を受け入れた社会に影響を与える。その一方で、社会のあり方によって、国境を越えて移動してきた人の生活状況は異なる。この講義では、多文化社会における問題を把握し、解決策を考えるために、日本における移民の生活状況(仕事や学校、地域生活、家庭生活など)と、それに対する社会制度の影響について理解することを目的としている。

授業は講義形式で行うが、映像資料の利用や、受講者間でのディスカッションを通して、授業内容を自分にひきつけつつ考える時間を設ける。各回の具体的な内容は、「授業予定」に記載の通り。

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：日本における外国人受け入れの歴史

第3回：国民観の国際比較と国籍・移民制度

第4回：低技能労働者としての外国人

第5回：高技能労働者としての外国人

第6回：ケアワーカーとしての外国人

第7回：難民

第8回：国際結婚

第9回：外国人の子どもの教育①

第10回：外国人の子どもの教育②

第11回：外国人と社会保障

第12回：外国人と社会保障

第13回：諸外国における外国人受け入れ制度

第14回：地域における外国人住民との関係

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

授業への積極的な参加(40%)、最終レポート(60%)

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。

参考書は授業の中で適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：

外国人の受け入れや在日外国人の生活状況に関連するニュースに関心を持ち、情報を集めておくことが期待される。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中 (5), 単位数：2

担当教員：秦 正樹 (非常勤講師)

講義コード：LB98829, 科目ナンバリング：LHM-OS0301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：政治心理学

2. Course Title (授業題目) : Political Psychology

3. 授業の目的と概要：

本講義では、政治行動論や社会心理学との比較の中での政治心理学の特徴を説明した上で、その古典的研究における知見から最新の研究動向まで説明していく。具体的には、政党帰属意識、政治的洗練性 (政治知識・政治関心)、メディア効果論 (新聞・テレビ・SNS)、政治文化 (政治的社会化・脱物質主義・ソーシャルキャピタル)、有権者の自律性 (合理的選択論・ポピュリズム) といったテーマをとりあげ、そこでのメカニズムを説明する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course provides the basic theories of political psychology, comparing with political behavior and social psychology. We focus on party identification, political sophistication (e.g. political knowledge, political interest), media politics (e.g. TV-news, Internet), political culture (e.g. political socialization, post-materialism, social capital), voter rationality (rational choice and populism).

5. 学習の到達目標：

本講義の目的は、政治心理学の理論や、知見、研究例についてなじみ理解を深めることにある。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students better understand political psychology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 政治心理学の特徴：合理的選択論との比較の中で
2. 政治心理学の方法論：因果推論とサーベイ実験
3. 政治文化 (1)：民主制と政治的社会化
4. 政治文化 (2)：価値観変動とソーシャル・キャピタル
5. 投票行動 (1)：ダウンズモデルと政党システム
6. 投票行動 (2)：コロンビアモデル～ミシガンモデルまで
7. 投票行動 (3)：業績評価投票～ニューロ・ポリティクスまで
8. 政治的洗練性 (1)：ヒューリスティックとしてのイデオロギー
9. 政治的洗練性 (2)：政治的知識・関心・有効性間感覚に関する議論
10. 政治的洗練性 (3)：「新しい X」(ミリュー・強化学習・記憶) の発見
11. 政治とメディア (1)：限定効果論～新しい強力効果論まで
12. 政治とメディア (2)：WEB(SNS) の効果に関する研究動向
13. 有権者の自律性 (1)：維新の会は「ポピュリスト政党」なのか？
14. 有権者の自律性 (2)：外交・安保 (ハードイシュー) と「ネット右翼 (ネトウヨ)」
15. まとめ：政治心理学は何を明らかにしていないのか？

8. 成績評価方法：

期末レポートのみで評価します。課題は、授業で紹介した理論を用いて、実際にあった政治現象を理論的・実証的に分析することを求めます。詳細は授業中にお知らせします。

9. 教科書および参考書：

授業ごとにレジュメを配布します。各自の関心に応じて、下記の参考書を紹介いたします。

1. ドナルド・R・キンダー (加藤秀治郎・加藤祐子訳). 2004. 『世論の社会心理学：政治領域における意見と行動』世界思想社.
2. 山田真裕・飯田健. 2009. 『投票行動研究のフロンティア』おうふう.
3. 善教将大. 2018. 『維新支持の分析：ポピュリズムか、有権者の合理性か』有斐閣.
4. 今井耕介 (粕谷祐子・原田勝孝・久保浩樹訳). 2018. 『社会科学のためのデータ分析入門』岩波書店.

10. 授業時間外学習：

上記の本や授業中に紹介する論文を各自で読んで、政治心理学のメカニズム理解の深化に努めてください。また、twitter など、SNS で政治問題が実際にどのようにフレーミングされているかについても関心を持っておきましょう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫, 瀧川 裕貴 (教授・准教授)

講義コード：LB51502, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：社会秩序形成とエージェント・ベースト・モデル
2. Course Title (授業題目)：Formation of social order and agent-based models
3. 授業の目的と概要：
人々が自発的に秩序（協力行動など）を生み出している社会現象がある。本演習では、いくつかの論文を輪読して、これらの現象を分析する方法を理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)
Students will read some papers on self-organization of social order to understand how to study such phenomena.
5. 学習の到達目標：
進化ゲーム理論やエージェント・ベースト・モデルが社会学にいかなる貢献をするのか理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)
Students will understand how evolutionary game theory and agent-based models contribute to sociology.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション (1)
 2. イントロダクション (2)
 3. 社会秩序概念の検討 (1)
 4. 社会秩序概念の検討 (2)
 5. 自己組織性の理論的検討 (1)
 6. 自己組織性の理論的検討 (2)
 7. 自己組織性の経験的分析 (1)
 8. 自己組織性の経験的分析 (2)
 9. 進化ゲーム理論 (1)
 10. 進化ゲーム理論 (2)
 11. 計算社会学入門 (1)
 12. 計算社会学入門 (2)
 13. エージェント・ベースト・モデル (1)
 14. エージェント・ベースト・モデル (2)
 15. ここまで演習で取り上げたトピックを再検討し、エージェント・ベースト・モデルによる社会秩序の自己組織メカニズムの分析について探究する。
8. 成績評価方法：
() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [50%]
9. 教科書および参考書：
開講時に指示する。
10. 授業時間外学習：
演習中の議論に積極的に参加できるように、事前に関連文献に目を通すなど予習をしておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
12. その他：
オフィスアワー：月曜日午後 12 時～午後 1 時 (事前に予約すること)
第 6 semester の行動科学演習と併せて参加すること

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫, 瀧川 裕貴 (教授・准教授)

講義コード：LB61503, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：エージェント・ベースト・モデルによる社会現象の分析
2. Course Title (授業題目)：Analysis of social phenomena by agent-based models
3. 授業の目的と概要：
エージェント・ベースト・モデルの手法を修得し、自分で社会現象を解明する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)
Students are expected to master methods of agent-based modeling and study social phenomena by themselves.
5. 学習の到達目標：
前期の議論を踏まえて、実際にエージェント・ベースト・モデルを構築して、社会現象を自分で解明できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)
Students will be able to build agent-based models and study social phenomena by themselves.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. プログラミング入門 (1)
 3. プログラミング入門 (2)
 4. プログラミング入門 (3)
 5. 研究テーマの決定とグループ分け
 6. グループ別の進行状況報告と検討 (1)
 7. グループ別の進行状況報告と検討 (2)
 8. グループ別の進行状況報告と検討 (3)
 9. グループ別の進行状況報告と検討 (4)
 10. グループ別の進行状況報告と検討 (5)
 11. グループ別の進行状況報告と検討 (6)
 12. グループ別の進行状況報告と検討 (7)
 13. グループ別の進行状況報告と検討 (8)
 14. グループ別の進行状況報告と検討 (9)
 15. 各グループによる最終的な研究報告
8. 成績評価方法：
() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [50%]
9. 教科書および参考書：
開講時に指示する。
10. 授業時間外学習：
グループに分かれてプログラミングを行うので、積極的にグループワークに参加すること。
11. 実務・実践的授業/Practical business：
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他：
オフィスアワー：月曜日午後 12 時～午後 1 時 (事前に予約すること)
第 5 セメスターの行動科学演習と併せて参加すること

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB51405, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：質問の科学

2. Course Title (授業題目)：Science of Asking Questions

3. 授業の目的と概要：

行動科学的研究においては調査や実験が行われることが多く、そこでは質問紙（調査票）が用いられることも多い。質問紙（調査票）の作成は長い間「アート」に属するものと見なされて来たけれども、近年になって「質問の科学」と呼ばれる、認知科学的視点にもとづく研究も盛んになってきた。この演習では、「質問の科学」の研究成果を報告した日本語論文を読むことで、行動科学的研究におけるデータ収集法・測定法の諸問題とそれへの対処方法を理解する。その際、「総調査誤差アプローチ」や「センシティブなトピック」などの関連分野の動向にも目配り

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Although questionnaire design in survey and experimental studies has been regarded as an "art," recent studies from the perspective of cognitive science provide foundations of "the science of asking questions" (as well as those of "total survey error approach," "unobtrusive methods," and some other related research projects). In this seminar, students will learn the fruit of these studies through reading papers (in Japanese) on survey response processes.

5. 学習の到達目標：

認知科学的な見方を身につけることで、データ収集・測定の問題について理解を深めるとともに、それらの問題に対処するためにはどのようにしたらよいかを考えることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this seminar is to help students to understand problems in measurement (or data collection) and to establish their ideas on the ways to cope with the problems.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業計画の説明、担当の決定、質問の科学の概観
2. 回答選択肢のレイアウト
3. 項目の方向性とグループ化
4. 中間選択肢の影響：検出の方法
5. 中間選択と質問内容、回答者属性
6. 中間選択と質問項目数
7. 中間選択とニューメラシー
8. 回答中断行動
9. 複数回答形式と個別強制選択形式
10. 最小限化（満足化）(1)：分析結果への影響
11. 最小限化（満足化）(2)：そのメカニズムと House Effect
12. 回答指示の非遵守と反応バイアス
13. レスポンス・スタイルの測定モデル
14. センシティブなトピックと使い捨て項目
15. センシティブなトピックとランダムイズド・レスポンス法

8. 成績評価方法：

期末レポート [50%]、平常点（授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程） [50%]

9. 教科書および参考書：

演習の場で検討する文献は、参加者各自が「電子ジャーナル」（附属図書館、CiNii, J-STAGE 等を経由）や「機関レポジトリ」などからダウンロードする。

参考文献：グローヴズ他（大隅昇監訳）『調査法ハンドブック』朝倉書店

10. 授業時間外学習：

- (1) 演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。
- (2) 担当の文献に関する報告の準備をする。
- (3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB61406, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：「質問の科学」実験実習

2. Course Title (授業題目) : Exercises in the Science of Asking Questions

3. 授業の目的と概要：

認知科学的視点に基づいた「質問の科学」に関する理解を、実験実習を通して深める。その理解にもとづいて、行動科学的研究におけるデータ収集法・測定法の諸問題とそれへの対処方法を習得する。その際、「総調査誤差アプローチ」や「センシティブなトピック」、「テキストマイニング」などの関連分野の動向にも目配りをする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this seminar, students will further their understandings of the "science of asking questions" by engaging in experimental surveys so that they can cope with problems in data collection in behavioral science. Exercises in text mining and randomized response technique are also provided.

5. 学習の到達目標：

- (1) 測定と尺度構成の基本的な考え方を、実習を通して理解する。
- (2) 人々が質問紙に回答する際の認知的メカニズムに関する理解を深める。
- (3) 準実験的フィールド調査と実験室実験を通して、質問紙の設計と調査実施の技法を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

- (1) To understand the concept and methods of measurement and scaling.
- (2) To understand cognitive mechanisms in survey response processes.
- (3) To learn the techniques of questionnaire design through planning and conducting experimental surveys.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業計画の説明、グループ編成
2. 分類とコーディング
3. 尺度構成法
4. 評定法・序列法・一対比較法
5. 準実験的調査の企画と実施(1)：調査テーマと調査対象の検討
6. 準実験的調査の企画と実施(2)：質問項目と質問文の検討
7. 準実験的調査の企画と実施(3)：実査の準備と実施
8. 準実験的調査の企画と実施(4)：データの整理と分析
9. 自由記述データのテキストマイニング(1)：2次分析の企画
10. 自由記述データのテキストマイニング(2)：基礎集計
11. 自由記述データのテキストマイニング(3)：多変量解析
12. ランダムイズド・レスポンス法(1)：実験の企画、用具等準備
13. ランダムイズド・レスポンス法(2)：協力者募集と実験実施
14. ランダムイズド・レスポンス法(3)：実験実施とデータの整理
15. ランダムイズド・レスポンス法(4)：データの分析

8. 成績評価方法：

レポート(6回)[50%]、平常点(課題への取り組み)[50%]

9. 教科書および参考書：

原 純輔・海野道郎『社会調査演習 [第2版]』 東京大学出版会、2004.
そのほかの文献については、授業で指示する。

10. 授業時間外学習：

- (1) 教科書や参考文献を事前に読み、予習をしておく。
- (2) 教科書等で指定された作業(調査・実験・データ分析等を含む、共同作業の場合もある)を行い、その結果をレポートにまとめる。
- (3) 教科書等にある「問題」について考え、その結果をレポートにまとめる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：浜田 宏 (教授)

講義コード：LB53209, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ベイズアプローチによる社会学の理論と実証

2. Course Title (授業題目) : Sociological Theory and Bayesian Statistics

3. 授業の目的と概要：

- 1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ.
- 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ. 見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する.

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

1. To learn the method that explain an interesting social phenomenon with mathematical models and statistical analysis
2. To learn how to formalize an interesting social phenomenon through this course. To train the ability that specifies the problem from good samples.

5. 学習の到達目標：

Stanを使ったベイズ統計の分析手法を習得する
現象の数学的表現を習得する
日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- 1.To learn Bayesian statistical analysis by Stan and R.
- 2.To learn mathematical formalization and modeling
- 3.To train the ability that specify and abstract the essence of social phenomenon

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション モデルとはなにか
2. 真の分布, 確率モデル, データ
3. 最尤推定
4. ベイズ推定
5. MCMC
6. 確率分布
7. 汎化誤差, AIC, WAIC, 予測分布
8. Stanによる分析: 回帰
9. Stanによる分析: モデル式の書き方
10. Stanによる分析: 階層モデル
11. Stanによる分析: 所得分布分布生成モデル
12. Stanによる分析: 観測モデルとの接合
13. Stanによる分析: 時間割引モデル
14. Stanによる分析: 教育達成の階層間格差
15. まとめと総括

8. 成績評価方法：

レポート [50%], 出席 [30%], その他 (授業時間内での報告や質問と、報告・レポートに至るまでの過程) [20%]

9. 教科書および参考書：

教科書：浜田宏・石田淳・清水裕士, 2019『社会科学のためのベイズ統計モデルリング』朝倉書店.

参考書：久保拓哉, 2012, 『データ解析のための統計モデルリング入門』岩波書店.

松浦健太郎, 2016, 『StanとRで統計モデリング』共立出版

Gelman et al. 2013, Bayesian Data Analysis, Third Edition, CRC Press.

その他の参考書は適宜指示する

10. 授業時間外学習：

予習に指定した範囲を事前に読んでくること.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

本演習ではRとStanによる実装例を紹介するので、実行環境を整えたノートPCを持参することが望ましい。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：浜田 宏 (教授)

講義コード：LB63209, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：社会科学のためのエコノメトリクス

2. Course Title (授業題目) : Econometrics for Social Science

3. 授業の目的と概要：

- 1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ.
- 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ. 見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する.

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

データの分析手法を習得する

現象の数学的表現を習得する

日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

テキストを輪読しながら数学的詳細をフォローする. 計算が必須なので必ず予習すること.

1. イントロダクション
2. 単回帰
3. OLS 推定量
4. 不均一分散
5. 検定
6. 欠落変数バイアス
7. 線形射影
8. 操作変数法
9. 識別
10. 反実仮想
11. 回帰不連続デザイン
12. 行列と漸近理論
13. 漸近効率性
14. GLS 推定量
15. TSLS 推定量, まとめ

8. 成績評価方法：

試験 [30%], 出席 [20%], 宿題 [50%]

9. 教科書および参考書：

教科書：鹿野繁樹, 2015, 『新しい計量経済学』日本評論社

参考書：末石直也, 2015, 『計量経済学』日本評論社

久保拓哉, 2012, 『データ解析のための統計モデルリング入門』岩波書店.

10. 授業時間外学習：

毎週, 指定された予習範囲を事前に読みコメントペーパーを準備する

指定された予習範囲の計算や証明を自分で確かめる

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

確率論, 微分積分, 線形代数の授業を事前に履修していることが望ましい。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：小川 和孝 (准教授)

講義コード：LB55209, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：偏見の社会学

2. Course Title (授業題目) : Sociology of Prejudice

3. 授業の目的と概要：

目的：偏見の生じるメカニズムについて、理論にもとづいて説明できるようになる。

概要：偏見の形成と維持のメカニズムのついての最新の知見を、文献講読を通じて学ぶとともに、今後の研究可能性について議論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course offers an opportunity to learn basic theory of prejudice and new findings in recent studies. It aims to help students explore in what mechanism prejudice has been formed and maintained.

5. 学習の到達目標：

個々の理論の関連を理解し、偏見に関する一連の研究を体系的に説明できるようになる。

偏見の生じるメカニズムについて、理論にもとづいて説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students are expected to become able to explain mechanisms through which prejudice has been formed and maintained based on theories.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

事前に文献を講読し、予習課題に取り組んだ上で授業に出席することが求められる。授業では初めに予習課題の理解を確認し、必要に応じて解説を行う。授業の後半では関連する論点・事例を取り上げてディスカッションを行う。また後半の回はいくつかのグループに分かれ、偏見や差別に関する具体的なトピックを設定して発表を行ってもらう。

【各回の構成】

1. イントロダクション
2. 偏見・差別・スティグマ
3. 社会的カテゴリ化・ステレオタイプ
4. 権威主義的パーソナリティ
5. 接触理論
6. 偏見のもたらす帰結・効果
7. 統計的差別
8. 偏見とメディア
9. 偏見・差別に関する法制
10. 人種・民族に関する偏見
11. 性別に関する偏見
12. 障害に関する偏見
13. グループ発表
14. グループ発表
15. 総括討論

8. 成績評価方法：

予習課題への取り組み (30%)、ディスカッションへの参加 (20%)、グループ発表 (20%)、最終レポート (30%)

9. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。

10. 授業時間外学習：

指定文献を事前に読み、予習課題に取り組むことが要求される。予習課題においては文献の理解のみならず、偏見によって生じる諸問題について、ニュースなどから情報を集めることも求められる場合がある。後半のグループ発表では、授業時間外に他の履修者と共同して準備を行うことが求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：小川 和孝 (准教授)

講義コード：LB65208, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：移動と階層

2. Course Title (授業題目)：International Mobility and Social Stratification

3. 授業の目的と概要：

目的：出入国管理法の改正に向けた動きが活発化し、さらなる外国人労働者の受け入れが行われつつある。しかし、外国人労働者の受け入れに関しては、制度整備が十分に行われていないことが指摘されている。この授業では外国人留学生の就職／就労をとりあげ、そこでの問題の実態を説明できるようになることを目的としている。

概要：外国人留学生の定着率が高まらないのはなぜか。就労／就職に関わる障壁を検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The aim of this course is to understand current employment conditions of skilled international migrants (especially international students) and their difficulties.

5. 学習の到達目標：

外国人留学生の就職／就労に関する問題の実態を説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students are expected to become able to explain what difficulties skilled migrants in Japan face.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

事前に文献を講読し、予習課題に取り組んだ上で授業に出席することが求められる。授業では初めに予習課題の理解を確認し、必要に応じて解説を行う。授業の後半では関連する論点・事例を取り上げてディスカッションを行う。また後半の回はいくつかのグループに分かれ、留学生・外国人労働者の就労に関する具体的なトピックを設定して発表を行ってもらう。

【各回の構成】

1. イントロダクション
2. 社会学における社会移動・地位達成
3. グローバリゼーションと移民
4. 移民と差別・不平等 (1)
5. 移民と差別・不平等 (2)
6. 日本社会における外国人労働の歴史的展開 (1)
7. 日本社会における外国人労働の歴史的展開 (2)
8. 日本社会における外国人留学生
9. 日本的雇用慣行と外国人労働 (1)
10. 日本的雇用慣行と外国人労働 (2)
11. 外国人労働をめぐる近年の法制と課題 (1)
12. 外国人労働をめぐる近年の法制と課題 (2)
13. グループ発表
14. グループ発表
15. 総括討論

8. 成績評価方法：

予習課題への取り組み (30%)、ディスカッションへの参加 (20%)、グループ発表 (20%)、最終レポート (30%)

9. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。

10. 授業時間外学習：

指定文献を事前に読み、予習課題に取り組むことが要求される。予習課題においては文献の理解のみならず、外国人労働に関する問題について、ニュースなどから情報を集めることも求められる場合がある。後半のグループ発表では、授業時間外に他の履修者と共同して準備を行うことが求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

